

# // 卷 頭 言 //

社会福祉法人日本ライトハウス  
本部 奥村 唯人

日本ライトハウスへの入社は2016年6月。今まで社会福祉法人での勤務はなかったのですが、突然なのか、導かれてなのか、ご縁をいただき、日本ライトハウスに勤めさせていただくことになりました。視覚障害リハビリテーションについては、特に知識もない身でございますが、本部にて日々頑張っております。

さて、視覚障害について意識をするようになるまでについて、自分の趣味といえる音楽が関わっていたと思いますので、少しばかりおつきあいをお願いします。

音楽というものに強く興味を惹かれ始めたのは、中学生の時に見た、「ベストヒットUSA」という音楽番組。小林克也さんの軽快な番組運びに、放送されるチャート曲。理由はわからないけれども、カッコいいと感じた記憶が。それからはテレビから流れてきていた歌謡曲に加えて、FMラジオの音楽番組を聴き、音楽に触れる時間が増えていきました。

高校生になり、音楽好きの友人もでき、聴くことから、演奏することにも興味を覚え、友人と共にバンドを組もうと、よくある高校生の一場面の展開に。今でもなぜなのか説明はできないのですが、ドラムを演奏したいと思ったのです。バンドを組んで演奏するということに対しては家族からの反対はなかったのですが、ドラムという楽器については「メロディー楽器をしなさい」、「ギターじゃだめなのか」と反対が。バンドが組めるのならギターをやってもいいかと、ギターを購入してもらったこともあり、あっさりギターに変更して挑戦をしてみました。ところが、練習を始めてみると、やっぱりドラムがやりたいなあという気持ちが膨らみ、加えて「F」のコードがどうやってみても演奏できない。

そこで小遣いのため、とにかく安いドラムセットを手に入れることにし、ギターは部屋の片隅に追いやられるということに。念願のドラムセットを手に入れた後は、家族もメロディー楽器についてはあきらめてくれて、ドラムを叩く

楽しさで近所迷惑を顧みず練習しておりました。

ドラムの演奏を始めたと同時期に、友人と共にバンドで演奏を始めました。学園祭などで演奏するというよくある高校生活を過ごしたのちに、大学へ入りバンド活動を本格的に行うようになりました。その頃は音楽に精通した友人が多く、友人たちに多くのミュージシャンを教えてもらい、その中に「ステイヴィー・ワンダー」さんがおられました。友人宅にてアルバムを聴いて感動している際に、「この人は目が不自由なんだよ。」と教わり、こんなメロディー、リズムを奏でている人が、目に障害を持っている方と知ったことが、視覚障害について意識するきっかけでした。その時から特に何かを始めたわけではないのですが、バンド活動をしていく中で、視覚障害をお持ちの方々に、楽器を演奏している方がたくさんおられることを知り、一緒に演奏する機会は残念ながらなかったものの、身近に感じることはできたのは、今では良かったなあと感じております。

日本ライトハウスへ勤務することになり、新任研修を経験したことから、手引きの仕方や接する際の注意点などを学びました。また、チャリティコンサートで演奏された和波氏、川島氏とお話させて頂いたり、ドラマーの響希君とご家族の方々からは今まであった色々なご苦労や、音楽を通して素敵な経験をされたお話をお聞きすることがありました。響希君がリズムを刻んで、一打、一打をたたく合い間に楽器を触っているのを見たので、不思議に思い聞いてみたら、楽器の位置を確認しているとのことで、驚きを覚えました。先生に習うこともなく、音楽を聴きながら独学で練習して身につけられたことで、素敵だなあ、すごいなあ、と思いました。

このように、多くの方々とお会いする機会を持つことができ、自分も少しは成長できていればと思うこの頃です。勤務して、もう三年という自覚も持てるよう、まだまだ三年だという気持ちも忘れずに、日々経験を積みながら過ごしていければと思います。